

「学校図書館・しらべ案内（探求ナビ）の作成・活用について」

1 「探求ナビ」の紹介

発表者 篠原由美子

パスファインダーは、図書館が作成して提供する「調べ方ガイド」である。必要に応じてサポートすることを前提としつつも、自力による情報資源の探索・入手をサポートするためにデザインされる。

パスファインダーの一定の様式として、タイトル（トピック）、トピックのねらい、キーワード、分類記号、入門的な情報源、いろいろな情報源（印刷資料、非印刷資料、web 情報源、その他）が知られている。トピックは大きなテーマではなく、NDC 分類第二次区分以下程度とする。

長野県図書館協会の「学校図書館・しらべ案内（探求ナビ）」は学校図書館による授業支援のひとつとして教科の学習に役立つことを目的としている。利用者は、学校司書、司書教諭、教科担当の教諭、児童生徒を想定している。トピックは教科書に即したものを中心に、発展学習や自学学習に結びつくものも扱うこととした。

今回学校司書による作成にあたって、打合せや入力・作成講習会を実施し、32 件を作成した。

今後の課題として、①パスファインダー作成に参加する人を増やすこと、そのために司書集団としての研修が必要。②利活用者を増やすこと、そのために授業者の活用、学校司書と司書教諭の協働連携、学校司書による働きかけが必要。

多くのパスファインダーが蓄積され、利用が増えることで学習支援のための適切なツールになっていく。

2 パスファインダーを作ってみて

発表者 由井尚美

パスファインダー作成に参加した動機：今学校図書館に求められていることに沿いたい、学校司書として「児童の学習」や「調べたい」という思いに役立ちたい。

パスファインダーに取り組んだ過程：①図書館を利用して本や資料を使う学習についての把握――図書館利用予定の学習を先生方から教えてもらう、各

学年の年間指導計画を見る、教科書（指導書）を読む、単元の学習内容について教科書出版社のサイトを参考にする、学習指導要領を読む。

②図書館を使う学習に使える本のリスト作成――自校・近隣の図書館の所蔵を調べる、カタログにあたる、出版年や改定版の有無なども考慮。

パスファインダー作成に取り組んで気づいたこと：従来は「使えらる資料」を一覧にしたリストを作成していたが、パスファインダー作成に取り組んだ結果、「学習の流れにそって使えらる資料」を選ぶことができた。すなわち、「概要を調べるための資料」として百科事典以外の資料も探す、テーマに関する資料をさまざまな分野（分類）から探す、学習内容を想定して使えそうな資料を選ぶなど、選択する観点を意識するようになり資料を選ぶための視野が広がった。

今後さらに「学習に役立つ（＝資料を探すときの参考になる）パスファインダー」とするために、先生方から授業展開や使いたい資料について教えてもらったり、パスファインダー利用後の感想や要望を聞いて見直し、更新していく事が大切である。

実践のなかから自校の教育課程にそったパスファインダーを作っていきたい。

3 システムの説明

発表者 甲田徹

グループウェアを利用したパスファインダーシステムにログインし web 画面により説明。

閲覧用システムでは、一覧から選択して各パスファインダーの詳細（トピック、トピックのねらい、キーワード、分類記号、入門的な情報源、その他の印刷資料、非印刷資料、web 情報源、コメント）を閲覧できる。キーワード検索が可能。画面スタイルの印刷可能、今後データダウンロード機能を付ける。

新規作成と更新のためのシステムでは、作業中と完成版の区別、公開への手続きの説明。

システムの URL やログイン方法については、長野県図書館協会サイトで案内する。



←システムへの
ログイン画面

4 授業に学校図書館を活用してもらうために ～先生への働きかけ～

発表者 望月美江子

(1) 先生方への働きかけ

- ①学校司書が「図書館を活用する授業」の内容・趣旨を理解する。そのために必要な資料や情報：教科書（図書館用・できれば指導書朱書編も）、学習指導要領、教科書出版社サイトの指導事項配列表、学級学年日より
- ②先生方に図書館についての理解を深めていただくために：図書館利用学習年間計画表の作成配布、教諭向けオリエンテーションの実施、図書館を活用した学習活動に役立つ図書や情報の紹介
- ③先生方と連携していくために：「図書館活用のしおり」配布、図書館利用連絡カードの活用、授業記録の蓄積、図書館利用連絡会の実施、職員向け図書館たよりの発行、学年会への参加

(2) 資料不足を補うために

- ①授業計画立案時に自校図書館で準備できる資料の数や内容を把握する。その状況に応じてテーマの絞込みや分散化等、学習活動の方法を工夫する。例えば班ごとにテーマを分ける、2人ペアにする、学級学年貸出、ジグソー法。

(3) その他

- ①図書館を活用した情報活用スキル習得に役立つ学習活動事例：図書館たんてい団、百科事典を使ってみよう、図鑑オリエンテーリング、クイズ・この本さがせ。
- ②公共図書館との連携：図書館連絡会の開催、調べ学習用資料リスト作成共有、学校向け団体貸出、
- ③情報源カードの活用

先進校の実践や研修を参考に小さなことでもできることから始めていくこと、そのことを意義とともに先生方に伝えること、そして先生方に図書館でできることを知っていただくことが大切。

5 質疑、意見交換

○学校図書館が学習センター機能、情報センター機能を果たしていくためには学校司書のみの力では難

しいのではないかと、しかし、司書教諭も担任も時間がなくて難しい。（学校司書以外の参加者）

○図書館を利用してはじめて知る事が多い、教師がまず本を読む事が大切。とにかく忙しくて時間が無いのが現状。（学校司書以外の参加者）

○学校司書に限られた時間のなかでこれだけのパスファインダーを作るにはかなり苦労されたのではないと思う。どのくらいの時間をかけたのか聞きたい。（新潟県の学校司書）⇒学校司書として子どもと接する時間内に作成することは難しい面があるが、パスファインダー作成を仕事として考えるか自分のスキルアップのためと考えるかということでもある。スキルアップすることで効率が上がるかもしれないと前向きに考えている。（由井）

○先生方とのコミュニケーションの時間が取れない。郷土資料について資料を探すのが難しいと感じているが、パスファインダーを参考にしてみたい。（石川県の学校司書）

○補助金を活用しているという説明があったがどのような補助金か知りたい。（新潟県の学校司書）⇒図書館振興財団等の補助金を活用している（宮下図書館協会会長）

○学校司書になって1年目である。学習センター、情報センターとしての資料を探す方法がわからなかったため、パスファインダーは参考になる。活用事例や資料を共有できるようになるとよい。（長野県内の学校司書）

○今後のシステムの展開とアナウンス方法を知りたい。⇒データをダウンロードして必要部分を編集活用してもらえようようにしていく。アナウンスとしては、まず長野県図書館協会サイトで告知するが、将来的には、県立図書館サイトでの周知を目指す。

○以前、図書館利用学習年間計画表を見て、それをひな型として利用して役立った。どこかで見る事ができないか。（長野県内の学校司書）⇒長野県図書館協会サイトからリンクしている旨案内。

6 アンケート結果の概要

パスファインダーは活用できそうだと、自分でも作ってみたいと思った、今後パスファインダーについての講習が開催されたら参加してみたい、という回答が多数であった。